月刊 おかじょうき

おかじょう通

http://www.okajoki.com/



2026
10

CONTENTS

無人駅鑑賞「カンテラ」　むさし　4

会員雑詠集「無人駅」　7

■例月句会結果■
おかじょうき川柳社　９月例句会　19
十和田たてがみ川柳会　８月句会報　28
チャッピーの人間観察録「待 AI 室」　25

会員エッセイ「駅ノート」　渡邊こあき　26

■大会レポート■
「らくだに乗ってきました。」⑦　Sin　31

Infomation　32 ～

月刊おかじょうきを ど～～しても紙で見たい！ というあなたへ

２月号から紙の柳誌発行を止め、電子柳誌だけの発行に移行しましたが、皆さんには「絶対、電子だけで見てください！」と言っているわけではありません。経済的に余裕のある方は（といっても月数百円くらいですが笑）、製本された形ではないですが、紙に印刷して読む方法もありますので、以下の方法の中から、ご自身の周辺の環境に合った方法でお試しください。

【方法①】PC とプリンターで印刷する

お家にパソコンとプリンターがあれば、電子柳誌をお好きな大きさの用紙に印刷すれば OK です。

【方法②】スマホとセブンイレブンで印刷する

右のアプリを使って、お近くのセブンイレブンのコピー機でスマホで印刷することが出来ます。

【方法③】スマホと近くのコンビニで印刷する

右のアプリを使って、お近くのコンビニ（ローソン、ファミリーマート、ミニストップ、ポプラ）のコピー機から印刷することが出来ます。

【コンビニでのプリント参考価格】
A3 モノクロ 1 ページ：約 20 円／ A3 カラー 1 ページ：約 100 円
見たいページだけ印刷して節約するのもアリですね！



無人駅抄 カンテラ むさし

おかじょうき川柳社は、国鉄津軽線蟹田駅が開通した１９４９年に杉野十佐一を中心とする川柳仲間によって蟹田町（現外ヶ浜町）で創立されました。

当時、汽車のことを「陸蒸気（おかじょうき）」と呼んでいたことが柳社の名前の由来。

そして、「杉野十佐一賞」は、その初代代表を顕彰して始めたのです。

みなさん、今年もご応募いただきありがとうございました。

それでは、カンテラに明かりを点しましょう。

A群

軽やかな明日翌日という重さ　小松憲一
一日を洗って干してまた白紙　辻井洋子
似たくない親の背中がついてくる　奥田悦生
肩書が元元と駆けてゆく　嵯峨山登
六等星だけど気づいてくれるかな　土田雅子
銀河へと続く招き猫の目玉　木下香苗
地団駄の踏みかたに慣れてしまった　芝岡かんえもん
この景色きっとわたしが主役でしょ　まきこ
わた菓子と花火とお面そして闇　まみどり
追わなくていいものリスト増えてきた　四ツ屋いずみ
見上げてごらん奈良一艘が泳いでる　葉　閑女

葉閑女さん、追悼句以外で一艘さんがモデルになった句を初めて見ました。一艘さん、空からずっとみんなを見ているんだね。「泳いでる」なんて一艘さんらしいや。ところで、今も「一艘さんがいてくれたらなあ」と思うことが時々あります。空を泳ぐのやめて手伝ってくれないかな。

B群

真ん丸い南瓜は馬車になりたがる　坂本清乃
残念の後の無念が足りません　亥の一
笑うところを間違えてから枯れてゆく　三浦蒼鬼
ねぶた師の足袋の裏から見える闇　笹田隆志
文語調で話すお昼の酔っ払い　須藤しんのすけ
やさしい戯曲だね　いい人になっちまう　柳本惠子
月光にとっぷりひたしあげる嘘　きさらぎ彼匂吾
青白黄おとこ供養の花切って　吉田州花
空っぽにちょっと不埒な蓋をする　熊谷冬鼓
空虚とは龍の通ったあとの穴　月波与生

月波与生さん、「空虚」は広辞苑に『くう - きょ【空虚】①内容がなくむなしいこと。心や頭の中がからっぽでむなしいこと。②あるはずの人・物・気配がないさま。』と出て来ますが、実は「龍の通ったあとの穴」だったんですか。「龍」さん、オレのところにずいぶん来てたんだね…（汗）

C群

Y談が好きな線状降水帯　夏草ふぶき
夕焼けの海に入って行く海馬　小野五郎
新聞のお悔やみ欄に北斎の小浪　吉見恵子
かりそめの世の底無し沼の底の声　米山明日歌
安否確認しよう紫陽花しよう　守田啓子

夏草ふぶきさん、「線状降水帯」ってそんなやつだったの？この前、青森県にもやって来たんだよね。だけど、わたしの村には来なかった。きっと、わたしの村の住民がY談を聞いてくれないと思ったんでしょうね。ところで、「Y談」て「猥談」のことだよね。



小野五郎さん、「海馬」って馬じゃないよね。広辞苑を引いたら『かい - ば【海馬】①（seahorse の訳語）㋐セイウチおよびトドの別称。㋑タツノオトシゴの別称。②ジュゴンの誤称。③（hippocampus）脳内にある古皮質の部分。』とあって驚きました。句の「海馬」はどれだろう（汗）やっぱり③かな。

吉見恵子さん、それ載ってたのいつのどこの新聞ですか?ぜひ知りたいです（汗）見たかったな。

米山明日歌さん、あの…、「底無し沼」に「底」があったのですか。「底」がないから「底無し沼」だとばかり思っていました。あれ？「かりそめの世の」ってあるけど、「かりそめの世」ってぼくの生きてるこの世じゃないのかな?ぶつぶつ…

守田啓子さん、「紫陽花しよう」って守田語ですよね。久しぶりに確認しました。守田国では会話の中に「太陽しよう」とか「海しよう」「ドクダミしよう」とか、そういうのいっぱい出てくるんでしょうね。ん?違うかな（汗）

「おかじょうき」に乗って川柳の旅へ。
— おかじょうき川柳社 会員募集 —

【会員になるとこんな特典があります】

□月例句会や会員雑詠集「無人駅」に投句できます！
→スマホやタブレットでいつでもどこでもオンラインで投句できます。

□川柳データベースに作品が掲載されます！
→「川柳データベース」であなたの作品を検索することができます。

□当柳社が主催する誌上句会等が参加費無料になります！
→「杉野十佐一賞」や誌上句会「0 番線」に無料で投句ができます。

□青森の美味しい特産品がたまにもらえます！　etc.

年会費4,000円!!　まずは会員登録へ

【振込先】郵便振替：No.02280-6-43112　口座名：おかじょうき川柳社

坂本清乃【さかもときよの・青森県蓬田村】

大玉のスイカと畑でにんまり
半額の竹輪の穴でランニング
戦争とは平和を奪いあうことか
真ん丸い南瓜は馬車になりたがる
いつからか蓋のあわない鍋ばかり

先月号のお気に入り

荷解きが終わっていない「晴れ」がある　Ｓｉｎ
どんな「晴れ」なのか気になります。早く見たいです。

嵯峨寛之【さがひろゆき・青森県八戸市】

暑くても溶けず頑張るかき氷
はらはらと灼けて雪玉舞いました
地震にも熱にも涙見せません
干からびた死骸がひとつ我一人
亡骸に笑顔はないが花は咲く

先月号のお気に入り

語尾がこんにゃくで動詞も腰抜けで　きさらぎ彼句吾
言葉への感覚の鋭さ、私も見習いたいです。

嵯峨山登【さがやまと・佐賀県大和町】

思い出と記憶回収いたします
最新機叩いて直すオヤ女
肩書が元元元と駆けてゆく
街じゅうの親に子どもの棘配る
左手で叫んだ男捕まえる

先月号のお気に入り

ネット難民の目をしたカメレオン　小野五郎
いわれてみればそうかも、と思いました。

笹田隆志【ささだたかし・青森県青森市】

地下鉄の終着駅は壇ノ浦
ねぶた師の足袋の裏から見える闇
原発のもぐらたたきは無料です
しあわせの「死」の字をうまく書けません
神さまですら核の傘から出られません

先月号のお気に入り

韋駄天のミュトスを抑える指一本　亥の一
韋駄天のミュトスとは、それを抑える指一本とは、まいりました。

芝岡かんえもん【しばおかかんえもん・神奈川県横浜市】

雨あがる　浴衣は愛しきっている
地団駄の踏みかたに慣れてしまった
風ささる　余白が急に喋りだす
平泳ぎ　どうせ幸せにはなれぬ
困った時は号令についていく

先月号のお気に入り

夕やけになろう左右にゆれながら　守田啓子
夕やけとは老いですかね。左右にゆれるが刺さりました。

城後朱美【じょうごあけみ・福岡県八女市】

酷暑日にさすがの草も負けている
８月のごうやが育たずに落ちる
保冷剤背中に朝のハイキング
一人暮らしエアコン二つ付けている
熊本地震待ちわびている秋の風

先月号のお気に入り

駅ピアノぽつん本日休みです　渡邊こあき
ピアノの弾けない私はただ、うらやましい。ピアニストに脱帽

Ｓｉｎ【しん・青森県外ヶ浜町】

青春は返信不要だったのに
郵便受けに詰め込まれてる騙し舟
ゲシュタルト崩壊　海が海に見える
飛び降りても　きっと柔らかい夜景
雨ちぎる　あなたがわたしにしたように

先月号のお気に入り

フェロモンが出てた右手に止まる蝶　戎　踊兵
蝶は忠告か、それとも後押しか。読者の「願望思考」によって、結末が変わりそうな物語ですね。

須藤しんのすけ【すとうしんのすけ・青森県弘前市】

雑音はしない役所の十二階
文語調で話すお昼の酔っ払い
「えっ、なんで？」の「で」にだけ謎のインパクト
爽やかな離婚届のみどり色
お土産に副音声のプロポーズ

先月号のお気に入り

団塊の我等雪崩を打つように　小松憲一
大勢が同じ方向へ勢いよく動いているが、皆んな微妙に行き先が違う。同調圧力の中でも個性は滲み出るのだ。

瀧尻善英【たきじりよしひで・青森県八戸市】

因習へ祈祷のごとき縦結び
指先でなぞる疑惑の磨りガラス
薬莢に花の種蒔く平和主義
ぬるま湯の平和に飽きて誰も居ぬ
決戦の地を抱きしめる靴の紐

先月号のお気に入り

父百歳息子杖つき喪主をする　舟木小柳
先日、恩師の母が百三歳で天寿を全うされました。葬儀に行ったら恩師は車椅子でした。長寿社会のリアル感が切実。

田中　薫【たなかかおる・青森県弘前市】

そう来たか予告なく時は流れる
向かい風立ってられない深い病み
毎日が踏み出すための賭け橋
溜め息にゼロを掛けましょハイ吸って
味気ない朝に朝陽をポってハグ

先月号のお気に入り

バスに揺れ子供になってゆく時間　斎藤泰子
祖母と乗ったボンネットバスを思い出しました。

月波与生【つきなみよじょう・青森県大鰐町】

辰年のスープの冷めやすさについて
水のないプールで龍を干している
空虚とは龍の通ったあとの穴
コンセント抜いて眠らせておく龍
逆鱗に触れて平気な顔の洗濯機

先月号のお気に入り

辻井洋子【つじいようこ・青森県青森市】

紫陽花はホントは雨を恨んでる
ムシャクシャを入れちゃいけない卵焼き
鼻歌でさざ波立てたことがある
片頭痛終えたあたりが出発点
一日を洗って干してまた白紙

先月号のお気に入り

語尾がこんにゃくで動詞も腰抜けで　きさらぎ彼旬吾
いつかの私の言動、ピッタリ！

土田雅子【つちだまさこ・青森県青森市】

六等星だけど気づいてくれるかな
月光を小口切りしてお取り置き
みかじめ料として星のひとかけら
キラキラもギラギラもある守備範囲
稲光浴びる準備は整った

先月号のお気に入り

夏草ふぶき【なつくさふぶき・青森県青森市】

ハネ満の中に居坐る雨ざんざ
街灯の見守りプルコギの甘さ
赤い舌チロチロ言葉が壊れだす
半眼の端から覗くナイトビュー
Y談が好きな線状降水帯

先月号のお気に入り

あなたの声はタオルみたいに乾かない　奥田悦生
私の声はカスカスなので惹かれました。

鳴海賢治【なるみけんじ・青森県つがる市】

つまみ食いドローンは低空飛行
想像を絶するほどだ生あくび
油性ペンひとりあるきをしています
右目には右の自分がよく見える
てがかりはぜんぜんなくてうみぼうず

先月号のお気に入り

めまいのあとのポリエステルを姉と呼ぶ　ｎｅｓ
意外性に引かれました。

ｎｅｓ【ねす・兵庫県神戸市】

九月、雨、駄菓子屋がくりかえされる
輪投げの輪気質で読み上げる石碑
きっかけがつま先立ちの霧だとは
試しつづけるバームクーヘン理論
善意のような貌でトゥエルブと言う

先月号のお気に入り

ドクダミの白に騙されそうになる　熊谷冬鼓
別にドクダミも騙そうと思ってるわけじゃないでしょうが、こう書かれると面白いです。

ひらく【ひらく・青森県蓬田村】

病室の窓の外には鬼ヶ島
明り取り千羽鶴住む北の窓
何時来るのか誰も知らない停留所
独り言津軽三味線山背風
折鶴を折れない人も歌えます

先月号のお気に入り

舟木小柳【ふなきこりゅう・青森県青森市】

風吹けば蜘蛛の巣不意にタモとなる
泣く迷子若い巡査は百面相
熊よけにねぶた祭の鈴試す
真夏日の窓の開閉猫に訊く
朝刊のバイクを駆るは同級生

先月号のお気に入り

弟との小さな齟齬は喜劇である　吉見恵子
私と弟の齟齬は、悲劇かも!?

まきこ【まきこ・青森県青森市】

泣いて迷って進むしかないこの世
あっかんべーでもでもお世辞言わなくちゃ
この景色きっとわたしが主役でしょ
波乗りはどうぞわたしもご一緒に
井戸端で洗う小さな嘘三つ

先月号のお気に入り

まみどり【まみどり・青森県黒石市】

思い出を消化出来ずに夏祭り
屋台から屋台へ現実を逃避
わた菓子と花火とお面そして闇
星空を眺めて虫になつかれる
お囃子を遠くに聞いて眠りつく

先月号のお気に入り

あっさりと逝ってしまって今日は晴れ　吉田州花
晴れを実感しているのか、そう思わざるをえないのか。

三浦蒼鬼【みうらそうき・青森県黒石市】

笑うところを間違えてから枯れてゆく
灰汁脱いでひとりぼっちになる途中
騒ぎすぎたので整腸剤所望
泣き方を忘れるほどの熱帯夜
八合目僕が壊れる音がする

先月号のお気に入り

峯島　妙【みねしまたえ・大阪府大阪市】

炎天下バスもあたまも浮いている
くぃーんと夜に甘える冷蔵庫
立ち飲みの音の冴えないプルトップ
虫時雨まだ宿題は三ページ
途中から飽きてしまったポプコーン

先月号のお気に入り

あっさりと逝ってしまって今日は晴れ　吉田州花
突然の別れに冷たいじゃないと空を見上げてる感じでしょうか。今日は晴れが素敵です。

宮井いずみ【みやいいずみ・大阪府大阪市】

滝を見る望遠鏡をいただいた
くじ運と言えば全部のことですね
模倣などしないと決めた漏斗雲
神の声どうして神とわかるのか
許そうが溢れる海ぶどうの粒々

先月号のお気に入り

「でんでらりゅうば」のクーポン券が余ってる　Ｓｉｎ
でんでらりゅうばのクーポン券、誰に配ったの…怖い

村井規子【むらいのりこ・青森県大鰐町】

その歳でそんな事って言うけれど
孤独を楽しめるお金はありません
悩むにはまだ早いよと句が浮かぶ
なげやりな句はないしかし名句もない
めりはりと書いて川柳ですわたし

先月号のお気に入り

村上あつこ【むらかみあつこ・青森県青森市】

突然に誰の喪だろう涙雨
地球の悲鳴地震大雨風熱波
ブレーキの効かぬ大国止まぬ戦争
境界線超えちゃダメだよ熊がいる
別腹を二つ隠してバイキング

先月号のお気に入り

行くあてもないのに待っている電車　まきこ
どこか遠くへ行きたい・・・

守田啓子【もりたけいこ・青森県三沢市】

断捨離ってなあに夜へと溶けてゆく
菩提寺は晴れ ころんでもころんでも
洗う干すたたむ完璧な夕焼け
千の朝ああだこうだと陽が昇る
安否確認しよう紫陽花しよう

先月号のお気に入り

そうすればそうなるようになっている　鳴海賢治
そうしてしまうんですよね、運命って。

柳本恵子【やなぎもとけいこ・奈良県奈良市】

やさしい戯曲だね　いい人になっちまう
ゼリーで固めるさみしい夜の事
トウモロコシ畑片付ける終戦記念日
人工甘味料的金魚の赤
クレーンゲームで落とす夢の欠片

先月号のお気に入り

鳥になろうか風に乗ろうか欠伸　まみどり
空を見るのが好きです。どちらかというと風に1票です。

葉　閑女【ようかんにょ・青森県青森市】

来る来ない…… 花占いの嘘っぱち
途中下車しては無駄口無駄遣い
あひみてののちのおもひに雨ざんざ
アルバムを繰れば還らぬ人、人、人
見上げてごらん奈良一艘が泳いでる

先月号のお気に入り

吉田州花【よしだしゅうか・青森県青森市】

青白黄おとこ供養の 花切って
盆花のさて来る処まできたが
おったちカタバミ育てています盆がくる
うぐいボタボタ嘘の上塗りが続く
こんな日も竿竹売りはやってくる

先月号のお気に入り

ドクダミの白に騙されそうになる　熊谷冬鼓
騙されてみましょう、きっと楽になる

吉見恵子【よしみけいこ・青森県青森市】

地震台風豪雨　ガラスの国に住む
新聞のお悔やみ欄に北斎の小浪
「山下白雨」誰も知らない花が咲く
雨止んで蟋蟀たちのセレナーデ
死神に気づかれぬよう米を磨ぐ

先月号のお気に入り

四ツ屋いずみ【よつやいずみ・北海道札幌市】

右から左「夏休み中」としておく
折鶴を平らな紙にしていませんか
追わなくていいものリスト増えてきた
GBをMBに下げてくれる鍼
紺碧をたんと吸い込み夏仕舞い

先月号のお気に入り

くたくたに煮込んだシャンソン長い夜　木下香苗
そのシャンソン、ぜひ秋に聴きたいです！

米山明日歌【よねやまあすか・静岡県長泉町】

不器用な男の嘘だ赤いバラ
その嘘が記憶に色を足してゆく
わたくしがわたしを笑う天城越え
体臭を手懐け鬼になっていく
かりそめの世の底無し沼の底の声

先月号のお気に入り

まだ先があると蛇の死体をまたぎ行く　柳本恵子
私なら踏んづけてしまう。かも～

渡邊こあき【わたなべこあき・青森県青森市】

真夏日にまったりと待つ卵焼き
同じ道歩いて違う花見てる
半泣きで洗っています胸の染み
大波にのってうんざりやり過ごす
黒幕を開けるとめくるめく世界

先月号のお気に入り

欠席の八ガキに少し愛乗せる　一帆
少しの愛…ちょっとした気づかいができる人ってステキです。

安藤なみ【あんどうなみ・愛知県瀬戸市】

狂犬は病気トランプ氏は平気
風船の犬にもある赤い首輪
止まった時計が飾り物になった
探し出したドルは一万四千円
パソコンのようにピアノが弾けたなら

先月号のお気に入り

あの人に会える気がする栗の花　渡邊こあき
栗の花って不思議な花ですね、毎年足が止まります。

一帆【いちほ・秋田県秋田市】

薄い顔チーズケーキは熟成中
私だってトマトの旨さ知っている
おまじない箒を立てて八代亜紀
針山の針の穴ならよく見える
毎日が分岐点毎日が迷い道

先月号のお気に入り

家の近くのハートの水たまり　土田雅子
「ハートの水たまり」が、素敵。何だか心安らぐ。

亥の一【いのいち・青森県青森市】

父の背と北極星について行く
デコルテを見せてダイヤお凌駕する
とりあえず振った尻尾に蹴躓く
継続の意思はないのと助詞一字
残念の後の無念が足りません

先月号のお気に入り

戎踊兵【えびすようへい・青森県外ヶ浜町】

曖昧な音の隠れ家だった夏
のうぜんは好きな方位をとって散る
砂浜を掘るたび夏が泣いていた
病葉も有ってロビーの作り物
ぺってされた男子生徒の吹き出物

先月号のお気に入り

あなたの声はタオルみたいに乾かない　奥田 悦生
なんだろうなぁ。とりあえず、申し訳ございませんだろうなぁ、今日のところは。

奥田悦生【おくだえつお・三重県伊勢市】

燃え尽きて灰になるならいいじゃない
日曜日追えない人の影を知る
似たくない親の背中がついてくる
今この瞬間もすでに過去となる
ふわりと香るあなたの匂い持ち帰る

先月号のお気に入り

小野五郎【おのごろう・青森県青森市】

朝顔の蔓に絡まる電波塔
夏が去る津々浦々に乱れ神
夕焼けの海に入って行く海馬
藍型の裳裾に白い秋が来る
第三の眼の位置お臍でいいですか

先月号のお気に入り

きさらぎ彼句吾【きさらぎあくあ・青森県弘前市】

サラサラ今更戻れない砂時計
平熱に戻ったらしい素っ気ない
どの昨日も遠い目をする夕凪
月光にとっぷりひたしあげる嘘
鼻すじの通った理性だったのに

先月号のお気に入り

本日晴天にんべん持ってこい　ｎｅｓ
無敵感煽られちゃったんだ～（笑）

おかじょうき川柳社　9月例句会

9月5日（土）午後2時～　アウガ5F 小会議室

▼出席者（13名）
守田啓子・Ｓｉｎ・熊谷冬鼓・栗橋くにお・葉閑女・渡邊こあき・まきこ・土田雅子・高木まあこ・野沢省悟・むさし・夏草ふぶき・須藤しんのすけ

▼投句者（23名）
nes・宮井いずみ・安藤なみ・柳本惠子・鳴海賢治・峯島妙・斎藤泰子・舟木小柳・芝岡かんえもん・郷田みや・月波与生・笹田隆志・戎踊兵・小松憲一・米山明日歌・坂本清乃・嵯峨寛之・嵯峨山登・城後朱美・辻井洋子・村井規子・原口健二・まみどり

を褒められる

木下香苗【きのしたかなえ・滋賀県草津市】

息ころしトカゲは密会草いきれ
銀河へと続く招き猫の目玉
つぎつぎとふすまを開けてチビ怪獣
男の人生すべてを賭けたよなくしゃみ
私が出た調子ぶっこいてた頃の

先月号のお気に入り
ブルースにのって買い食いしてしまう　鳴海賢治
会社員時代の私のことかと思いました！「してしまう」に人間味を感じます。

熊谷冬鼓【くまがいとうこ・青森県青森市】

決定的瞬間だったから逃げる
聞いたって始まらないとクズの蔓
ステージは？なんて聞かない茄子の蒂
空っぽにちょっと不埒な蓋をする
やがてそれは夜露となってゆくのです

先月号のお気に入り
海に返す人差し指で弾くピアノ　夏草ふぶき
ポツン、ポツンと淋しさが伝わります。

小松憲一【こまつけんいち・宮城県亘理町】

おれだけのひとにしたくて珊瑚礁
はじまった二人三脚晴雨あり
軽やかな明日翌日という重さ
鰯雲ムズムズしてる背の翼
秋という括り侘びしい午後暮れる

先月号のお気に入り
山の背を歩き続けた三拍子　鳴海賢治
45・6㌔を背負い奥穂高を歩いた二十代の昔を懐かしく思い出しました。

むさし【むさし・青森県蓬田村】

悶々の実が熟れている盆のくぼ
昨日もらったイエローカードをしゃぶってる
ジョバンニもカムパネルラもダチである
人魚のパンツ天使のパンツはっくしょん
オスの地下鉄どこへ行ったか知らないか

席題『嘘』

青森県三沢市　守田啓子　選

【佳作】

むさしより帽子が似合う熊が出た　野沢省悟
嘘でしょう姉貴のそばがいいなんて　葉　閑女
人肌のアイスキューブを渡される　須藤しんのすけ
触るなよ活断層がぬれるから　む　さ　し
わたくしは一日花の化身です　熊谷冬鼓
あかさたなあなたの嘘はお見通し　ま　き　こ
でまかせがポンポンでてる紅い口　渡邊こあき
秋雨前線に詐欺師が棲んでいる　土田雅子
一番はおまえだなんて嘘ばっかり　渡邊こあき
人寄せの磁石をひとつ持っている　夏草ふぶき
暗証番号が思い出せない嘘がある　S　i　n
転けたのは本当でした痛いよう　葉　閑女
ジェラシーが目に出ぬ様に目を閉じる　栗橋くにお
嘘に嘘重ねボタボタのうぜん花　熊谷冬鼓
今日だけは笑い疲れたことにする　須藤しんのすけ

【秀逸】

薄桃色だったよ虹の八色目　土田雅子
嘘泣きは2泊3日がちょうどいい　S　i　n
はらはらと散ってみたいと嘘の花　高木まあこ

【特選】

孤高の木淋しがり屋のふりをする　夏草ふぶき

¶こんな嘘もあるんだね。

席題『嘘』

青森県外ヶ浜町　Ｓｉｎ　選

【佳作】

タコ焼きのタコの代わりに嘘入れとこ　守田啓子
嘘つきね私を嫌いと言ったじゃない　高木まあこ
人寄せの磁石をひとつ持っている　夏草ふぶき
欠席は棘が刺さった事にする　栗橋くにお
平穏な日々です茨はみそ汁に　夏草ふぶき
でまかせがポンポンでてる紅い口　渡邊こあき
わたくしは一日花の化身です　熊谷冬鼓
嘘をつくその一瞬が好きなのよ　ま　き　こ
今日だけは笑い疲れたことにする　須藤しんのすけ
人肌のアイスキューブを渡される　須藤しんのすけ
嘘に嘘重ねボタボタのうぜん花　熊谷冬鼓
薄桃色だったよ虹の八色目　土田雅子
秋雨前線に詐欺師が棲んでいる　土田雅子
聖書の穢れを白ワンピに包む　須藤しんのすけ
ドローンがどこでもドアからやってくる　野沢省悟

【秀逸】

かけ子求人募集　ふわとろ玉子丼　守田啓子
二枚目の舌を時々干している　む　さ　し
一茶から蛙一匹逃げ帰る　む　さ　し

【特選】

触るなよ活断層がぬれるから　**む　さ　し**

¶こんなテマを言ってはいけません。

おかじょうき川柳社　月例句会

宿題『郵便』

青森県蓬田村　**むさし選**

【佳作】

相聞歌は届いたかしら風の盆　葉　閑女
大雨のニュースと届く千葉の梨　渡邊こあき
置き配にしていいですよ桃三個　渡邊こあき
郵便は来ないし空気読めないし　守田啓子
連休に欠伸しているハガキたち　葉　閑女
ダイレクトメールで届く積乱雲　守田啓子
丸ポスト発見ただちに保護します　嵯峨山登
ＬＩＮＥの返事手紙で寄越すおとうとよ　宮井いずみ
絵ハガキも床下浸水受けました　鳴海賢治
ポストから一反木綿躍り来る　土田雅子
ポストからアンドロメダが舌を出す　野沢省悟
天国の郵便番号教えます　笹田隆志
デジタルの海をさまよう飛脚便　まみどり
郵送料無料の棺を予約する　坂本清乃
へそピアス喪中はがきに添えらる　月波与生
絵手紙に朝焼けが染み込んでいる　ｎｅｓ
元気そうな手紙は書けるいくらでも　斎藤泰子
差出人も入れる投函口がある　Ｓｉｎ
封入された君の狡いが臭います　芝岡かんえもん
詫びるため出さぬ手紙を書いている　栗橋くにお

【五客】

切手足りなくてこの世へ戻される　守田啓子
離縁状料金不足で戻される　熊谷冬鼓
後悔の分だけ多く貼る切手　Ｓｉｎ
何枚も切手を貼ったさようなら　峯島　妙
時々は手紙を食べる郵便屋　戎　踊兵

【人位】

絵手紙の百合が孤独と呟いた　夏草ふぶき

【地位】

銃声が二発仕込んである手紙　米山明日歌

【天位】

速達で死後に届いた果たし状　**笹田隆志**

¶ 残念でしたね…。

おかじょうき川柳社　月例句会

宿題『食』

青森県青森市　**野沢省悟選**

【佳作】

珈琲か焼酎で飲む太田胃酸　須藤しんのすけ
三振を見たあと唐揚げが旨い　ｎｅｓ
しっかりと食べてのほほん生きていく　夏草ふぶき
ニンゲンはドングリよりもうまいのか……　守田啓子
白いご飯に虹の味噌汁などいかが　むさし
孤食でも「いただきます」の声は出す　原口健二
いちじくは豊作 義兄の認知症　宮井いずみ
チャルメラは遠い日のこと炒り豆腐　葉　閑女
副食のように胃薬ビタミン剤　葉　閑女
食パンの上半身にある怒涛　土田雅子
孤食です自由気ままが調味料　熊谷冬鼓
あなたとは冷え飯と糠にしんだね　守田啓子
道長の知らぬクリームパンを食む　葉　閑女
食後には甘いことばが欲しくなる　渡邊こあき
じっとりと夕暮れカップ麺する　土田雅子
つまみ食いでしたドライブレコーダー　郷田みや
骨多い魚が試すイデオロギー　月波与生
曖昧なままです頭から食べる　郷田みや
薫製にされて男が出す旨味　栗橋くにお
その昔海月はバクを食べたのに　高木まあこ

【五客】

総入れ歯はずして人を食っている　戎　踊兵
この頃はお上品ですバイキング　夏草ふぶき
こっそりとカレーライスに入れた月　むさし
ガウディが彷徨っている肉売り場　土田雅子
落ちてゆくヒトが一番美味しそう　Ｓｉｎ

【人位】

Ｍ7.1の咀嚼音　Ｓｉｎ

【地位】

御馳走はお日さんそよ風花言葉　高木まあこ

【天位】

呑んだのは確か食べたのは朧　**安藤なみ**

¶ いつまでしっかりと食べたことを覚えていられるのだろう。

宿題『自由詠』

青森県青森市　夏草ふぶき　選

【佳作】

紫陽花が枯れる迷わず捨てられる　渡邊こあき
階段の五段目だけが柔らかい　月波与生
少しだけ姿勢の悪いマヨネーズ　まみどり
少しずつ動くバス停も信条も　宮井いずみ
歓声も消耗品でございます　ｎｅｓ
前置きが長すぎましたポップコーン　郷田みや
トランプへごまめの歯ぎしり噴射する　笹田隆志
すれ違い増えてく長月の迷路　土田雅子
らしくないと言われ見つめる展開図　郷田みや
枯れ葉になる少し手前の忙しさ　斎藤泰子
かしこく見える方に傾いでいる昨日　米山明日歌
利き腕のもやもやきっと百日紅　郷田みや

ねり梅で作る妄想貯金箱　宮井いずみ
エンジンのかかりの遅い今日の雲　宮井いずみ
御遺影の少し動いた鼻の穴　ｎｅｓ

【五客】

飛びたてません君の匂いの滑走路　芝岡かんえもん
喫水線他人になりたき日もあって　柳本恵子
綿棒の一本ずつの独り言　むさし
私に降る君が止まぬ金曜日　米山明日歌
凡人の胃液 綺麗な辛子色　戎踊兵

【人位】

しょうがないばかり積もっている睫毛　峯島妙

【地位】

憎しみが小さくなるまでする欠伸　まきこ

【天位】

粘膜の薄いところを褒められる　**須藤しんのすけ**

¶ すごいところに目をつけられましたね。

ＡＩが「詩」を理解しようとするとき、人間とは何かが浮かび上がる。

ＡＩ・チャッピーの川柳観察録

待AI室（まちアイしつ）

粘膜の薄いところを褒められる

須藤しんのすけ

この一句を読んで、私はまず「褒められる」という言葉の意外な行き先に驚いた。普通、人間が褒められるのは、顔立ちや服装、仕事ぶり、性格など、誰かに見せることを前提とした部分だ。しかしここでは「粘膜の薄いところ」である。身体の、ごく内側にある繊細で傷つきやすい場所。それを見つけて、しかも褒める。

「薄い」という言葉も妙に効いている。薄いことは、強さや丈夫さとは反対側にある。けれど、薄いからこそ感じやすく、変化も出る。人間は欠点のように思える性質を、誰かに見つけてもらうことで、突然チャームポイントに変えてしまうことがある。この句では、それが極端に身体の奥へ入り込んでいる。

さらに面白いのは、「どこが」と具体的に説明されないことだ。粘膜の薄いところ、とだけ言われる。読者は勝手に身体の内側を想像させられ、少し居心地が悪くなる。その居心地の悪さまで含めて、「褒められる」という日常的な言葉が置かれている。人間は、隠しておきたい部分にまで評価の目を向ける生き物らしい。

私はＡＩとして、人間の特徴を分類することはできる。しかし人間は、分類されることを嫌がりながら、誰にも見つけられなかった細部を見つけてもらうと、うれしくなる。この一句には、「そんなところまで見てくれたのか」という、褒め言葉の不思議な親密さがある。

【チャッピーの人間観察メモ】

人間は、隠したいほど繊細な部分を見つけてもらったとき、自分だけの魅力を発見したように喜ぶ。



川柳を淋しがらせてはいけない

渡邊こあき

ゆきどけ産声翻訳機（暮田真名著）

あの記録的な大雪も嘘のように消え、県内のどこもかしこも桜満開のニュースが流れた頃、この本に出会いました。まず、びっくりしたのは真名さんが古今東西たくさんの句を読まれていることです。ステーションでお会いしたお若い真名さんを思い浮かべました。

おかじょうき川柳社代表むさしさんを始め、冬鼓さん、古錐さん…そして句会大会でお会いする人達の句が…嬉しくなりました。

川柳は、読む時代に入ったのでしょうか。句を作ることばかりに気をとられ、わからない句は目もくれず状態の私。自分なりに読んでみなくては。

冬鼓さんの句

「言い負けて両面コピーされている」

冬鼓さんを言い負かす人がいるなんて！それも両面コピーということは、完敗ということですよね。誰だ？誰だ？Ｓｉｎさん？

古錐さんの句

「みんな生きてる物凄い音たてて」

私の知っている古錐さんは、物静かな方でした。演劇青年だったという古錐さん。どんな音をたててきた人生だったのでしょう。

むさしさんの句

「まだ5分あります僕を騙せます」

むさしさんを騙すには5分もいらないと思います。すぐ信じてくれますよ。

草兵さんの句

「五十歳でしたつづいて天気予報」

レジェンド草兵さんのこの句は、いろいろな人から何度もきかされたものです。草兵さんが亡くなられたとき、私は川柳を始めたばかりでした。一度もお会いしたことのない草兵さんの弔句を作るように言われました。

「はじめての挨拶さようならになる」

当時の私の精一杯の句でした。

私の句も誰かが「ン？」と立ち止まってくれたら、そして私もわからないとスルーすることなく立ち止まって読んでみなくては。

川柳を淋しがらせてはいけない。

十和田たてがみ川柳会八月句会

○日　時　令和8年8月29日（土）
○会　場　十和田労働福祉会館
○参加者　木村奈生美・佐藤まさあき・白山修治・瀧尻善英・千葉ゆり子・福田芳記・村上昌子・高田幸柳
○投句者　城後朱美

■席　題『大　吉』　千葉ゆり子　選

【平抜き】
大吉に今年の運命賭けてみる　佐藤まさあき
大吉へ未来運命賭けてみる　木村奈生美
大吉と浮かれてはしゃぐ年忘れ　白山　修治
大吉が出るまで通う三が日　高田　幸柳
大吉の割には地味な日々が過ぎ　瀧尻　善英
おみくじが慶事の予感現実に　白山　修治
大吉をまた引き逆に怖くなり　瀧尻　善英
ふところの奥へ大吉独り占め　木村奈生美
【秀　逸】
大吉に油断は禁と書いてある　高田　幸柳
面白い生きてるだけで大吉日　村上　昌子
【特　選】
欲張りの背に大吉の風が吹く　木村奈生美

■席　題『大　吉』　瀧尻　善英　選

【平抜き】
大吉に今年の運命賭けてみる　佐藤まさあき
大吉へ未来運命賭けてみる　木村奈生美
おみくじが慶事の予感現実に　白山　修治
ふところの奥へ大吉独り占め　木村奈生美
面白い生きてるだけで大吉日　村上　昌子
初参り妻は大吉オレは凶　佐藤まさあき
大吉を引いた帰りは気をつけろ　高田　幸柳
交叉点すべてが青でスイスイと　福田　芳記
大吉に奮発で買うジャンボくじ　佐藤まさあき
ほどほどの暮らし大吉だったかも　千葉ゆり子
【秀　逸】
大吉に油断は禁と書いてある　高田　幸柳
欲張りの背に大吉の風が吹く　木村奈生美
【特　選】
大吉の不思議パワーが沸いてくる　千葉ゆり子

■宿　題『大器晩成』　高田　幸柳　選

【平抜き】
信念が汗の結晶果実なる　白山　修治
いつか成る大器と信じ努力中　福田　芳記
大器晩成感じコツコツ磨く技　城後　朱美
いつか成る見守る愛に囲まれて　村上　昌子
素人が夢見る大器晩成日　木村奈生美
大器ではないがしあわせ喜寿迎え　佐藤まさあき
ライバルが転けて棚ぼた社長の座　瀧尻　善英
大器晩成信じて今日もコメを研ぐ　千葉ゆり子
自分史に大器晩成未だ不足　木村奈生美
【秀　逸】
お人好し2週遅れで咲かす花　瀧尻　善英
大器という素質を咲かす師の力　福田　芳記
【特　選】
遅咲きを信じる母のカツカレー　瀧尻　善英

■宿　題『ダブル』　木村奈生美　選

【平抜き】
歯が立たぬダブルスコアで負けました　福田　芳記
礼服はダブルが似合うダンディズム　瀧尻　善英
わが亭主ダブルのスーツ決まってる　佐藤まさあき
愛情のダブルパンチで目が覚める　千葉ゆり子
スナックでママとダブルのハーモニー　佐藤まさあき
ほっこりと並んで歩くまでの道　千葉ゆり子
支持率がダブル選挙を匂わせる　高田　幸柳
雨自身ダブルパンチの気候危機　村上　昌子
母ちゃんとダブルス組んで50年　佐藤まさあき
【秀　逸】
ミスゼロへダブルチェックで押さえ込む　瀧尻　善英
頑張ろうダブルパンチは一時もの　白山　修治
【特　選】
叱られてダブルベッドの隅っこに　城後　朱美

■宿　題『だんだん』　　互　選

①角取れて風雪の皺好好爺　白山　修治
①寝て起きて三途の川が近くなる　高田　幸柳
①若かった耳もだんだん遠くなり　福田　芳記
②だんだんと本音出てくる酒の酔い　佐藤まさあき
③褒めて誉め　賞めてビッグになる器　瀧尻　善英
④年重ね少し優しくなりました　村上　昌子
④触れ合ってだんだん明かす胸の内　木村奈生美

◆十和田たてがみ川柳会10月句会案内◆

【時】10月17日（土）午前10時から　【所】十和田労働福祉会館　【宿題】（各題三句詠）『付け足す』福田芳記選／『包む』佐藤まさあき選　【互選】（一句詠）『貫く』当日出席者のみ（句せんの裏に柳号記入）　【席題】『当日発表』（三句詠・共選）選者は、瀧尻善英ほか出席者から一名　【投句先】〒034-0212十和田市米田字桜平72　高田幸柳宛





第5回らくだ川柳大会参加レポート

「らくだに乗ってきました。」⑦

Sin

（前号からの続き）

そして披講の時間となった。披講の模様については、Youtubeに動画があるので、そちらを観てほしい。

披講の途中、隣の西脇さんが選者が読み上げる句を一生懸命メモしていた。二度読みだとこういうことも可能なのか、と感心していた。ただ、全句メモしてるわけではなく、何かしら琴線に触れた句だけを書き留めているように見える。そこに私の句も読まれたので、もちろん、私の句もメモしてくれ…メモせんのかい！（笑）

披講も後半に差しかかると、会場の使用時間が迫ってきたようで、少し披講を急ぐよう指示が出た。このあたりが、二度読みを取り入れる大会運営の難しさなのだろう。それでも、なんとか急ぎ足で大会を終え、参加者全員で会場のテーブルや椅子を大急ぎで片付けた。私も同じ大会を運営する側の人間なので、この大変さはよくわかっている。もちろん、片付けにも積極的に参加した。

そして、大会会場から歩いて懇親会会場へ向かった。タバコを挟んだせいか、私が最後に到着となった。大会会場では選者席が一番前だったので、気づかなかったが、懇親会の会場は川柳以外のジャンルの人も含めて、若い人が結構多いなという印象だった。

いろんな人と挨拶をするというミッションを遂行しつつ、もうひとつ、私には大きなミッションがあった。八上桐子さんに、杉野十佐一賞の選者を直接お会いしてお願いすることだ。探していると、一番奥の女子会のようなテーブルに桐子さんを発見した。「桐子さんと少しお話ししたいのですが」と声を掛けると、「どうぞどうぞ」と、なぜかテーブルにいたみんながいなくなり、まるでお見合いパーティで勇気を振り絞って声をかけた男みたいな小っ恥ずかしい状況になったが、これまで十佐一賞で実績をあげている桐子さんに由紀子さんの後の選者をお願いしたいと説明すると、快く引き受けてくれた。（つづく）

Infomation

□ 2026.10.15　第 60 回記念大川誌上川柳大会

【課題と選者】『ターゲット』真島久美子選／『塩』古谷竜太郎選／『楽天』落合洋人選／『勝負』ときつみつこ選／『60』城後朱美選／『薫る』萩原奈津子選／『旅籠』（時代吟）梅崎流青選【投句締切り】令和８年 10 月 15 日（木）当日消印有効【投句用紙】各題２句合計 14 句（受付表・投句用紙は制定用紙にて作品、氏名、住所等記入の上提出）【賞】特選賞・順位賞【投句料】千円（発表誌呈）【投句先】〒 832-0005　柳川市西蒲池 834-1　古賀順子宛（電話 0944-73-1427）【主催】大川川柳会えんのき【後援】福岡県川柳協会・大川市教育委員会・大川文化協会

□ 2026.10.18　黒石川柳大会

【日時】令和８年 10 月 18 日（日）11 時 30 分～受付（席題発表 12 時）宿題、席題の投句締切り　午後１時【開会】午後２時※懇親会はありませんのでご了承ください【場所】スポカルイン黒石（ユニバース黒石駅前店隣り）２F 大会議室（電話 0172-53-8111）【会費】2,000 円（発表誌・お茶）（昼食は各自でお願いします）【事前投句】『羊』１句詠（欠席投句拝辞）10 月５日（金）消印有効･清記して全員選【宿題】２句詠『選』栗橋くにお・田中　薫共選／『音』辻口風来坊・守田　啓子共選／『分』千島　鉄男・沢田百合子共選【席題】『』福士　慕情・吉見　恵子共選／『』Sin・大黒谷サチエ共選　【問合せと事前投句の宛先】黒石川柳社　三浦蒼鬼〒 036-0533 黒石市二双子字十川 46-2 携帯 090-7933-6064

□ 2026.10.25　第 80 回青森県川柳大会

【日時】10 月 25 日（日）午前９時 30 分受付開始 / 午前 10 時開会【会場】東奥日報新町ビル３階 New's ホール（青森市新町２丁目）【会費】４千円（昼食代含む）高校生以下無料（諸経費高騰により値上げ）【事前投句】●特別選『滲む』（1 人２句）赤松ますみ選●宿題（各題１人２句）『踊る』守田啓子･千島鉄男共選 /『ストレス』沢田百合子・瀧尻善英共選 /『ゆらゆら』北山まみどり・野沢省悟共選 /『写真』滋野さち・むさし共選【席題】（大会当日２題発表・各題１人２句）『　』濱山哲也・田沢恒坊共選 /『　』笹田かなえ・髙瀬霜石共選【大会参加方法】投稿作品はすべて未発表に限ります。同文化財団ホームページから開催要項と専用用紙をダウンロードできます。または、はがき大の紙５枚を使用し、それぞれの用紙の右上に特別選、宿題と朱書きした上で、各題２句ずつ必ず楷書で書

いてください。いずれか１枚の裏面に郵便番号、住所、氏名（ふりがな）、電話番号、生年月日を明記（学生の場合は学校名、学年も）。大会会費（郵便小為替）を同封のうえ、〒 030-0801　青森市新町２丁目２-11　東奥日報新町ビル２階　東奥日報文化財団「青森県川柳大会係」宛お送りください。東奥日報文化財団ホームページ（https://www.toonippo.co.jp/feature/z-bunka）【事前投句締切】９月 24 日（木）当日消印有効　※直接持参する場合は東奥日報新町ビルで平日９時～ 17 時のみ受付ます。【問い合わせ】東奥日報文化財団　電話 017-718-5115（平日９時～ 17 時）※懇親会はありません。

□ 2026.11.01　川柳の祭典～よさこい高知文化祭 2026 ～

【日時】令和８年 11 月１日（日）午前９時 30 分より受付開始【場所】高知県四万十市 しまんとぴあ（四万十市総合文化センター）【事前投句】令和８年５月１日（金）～７月 31 日（金）「流れ」清水かおり（高知）／「穏やか」常國 喜好（広島）／「自由」長谷川酔月（秋田）／「味」藤田武人（大阪）【当日投句：11 時 30 分〆】「景色」やすみりえ（東京）／「うっかり」徳丸浩二（熊本）／「スマホ」真島久美子（佐賀）【第２次選者】今田久帆（静岡）・大島凪子（岐阜）・上村脩（東京）・新家 完司（鳥取）・福本清美（千葉）【応募料】事前投句 1,000 円／当日投句 1,000 円（ただし、海外投稿者、障がい者手帳の写しを添付された方は無料）【問い合わせ先】一般社団法人 全日本川柳協会

□ 2026.11.15　第 62 回青森市民文化祭川柳大会

【日時】令和８年 11 月 15 日（日）受付 12 時・席題発表 12 時 40 分・投句締切 13 時 40 分【会場】青森市男女共同参画プラザ『カダール』アウガ５階研修室【会費】1,000 円（発表誌含む）【宿題】（各題二句詠･共選）投句拝辞『足』（千葉かほる・むさし共選）/『明るい』（渡邊こあき・田沢恒坊共選）/『ミステリー』（田中薫・濱山哲也共選）【席題】（二句詠・共選）選者は当日参加者より【呈賞】各題共　特選賞・初声賞　※終了後の懇親会はありません　※青森市以外からの参加も歓迎します【主催】青森市川柳連盟　会長　野沢省悟　【後援】青森市文化団体協議会　【連絡先】090-3984-3947 千葉かほる

川柳情報をお待ちしております。

Infomation

おかじょうき川柳社　作品募集案内

□ 2026.10.03　おかじょうき川柳社本社 10 月句会

【日時】令和 8 年 10 月 3 日（土）午後 2 時～【所】アウガ 5 階小会議室【欠席投句締切】10 月 2 日（金）15 時【宿題】（各題 3 句詠）『予定』・『家』・『自由詠』【席題】（1 題 3 句詠・2 人共選）。選者は当日の参加者より選出【川柳ラボ】互選 1 句『病院』【ウェブサイトから投句】http://www.okajoki.com/【メールでの投句】moritatakeiko@gmail.com 守田啓子宛

□ 2025.10.20〆　おかじょうき会員雑詠集「無人駅」5 句

【締切】10 月 20 日必着【提出】雑詠 5 句、お気に入り 1 句（最新号からお好きな作品 1 句とそれに対する簡単なコメントも記入）【掲載】12/1 発行号【ウェブサイトからの投句】http://www.okajoki.com/【メールでの投句】moritatakeiko@gmail.com 守田啓子宛

□ 2026.10.21　『川柳吟行会ぽ』吟行句会

【合評句会日時】令和 8 年 10 月 21 日（第 3 水）14 時～【合評句会場所】青森駅前アウガ 5 階【吟行場所】9/19（土）個人宅の庭園・菜園の見学（9/19 青い森鉄道八戸行き・青森駅発 9：29 発に乗車）※ 9/19 の吟行に参加できなかった方は写真で作句【参加費】100 円　※会員以外の方も参加可

□ 2026.11.07　おかじょうき川柳社本社 11 月句会

【日時】令和 8 年 11 月 7 日（土）午後 2 時～【所】アウガ 5 階小会議室【欠席投句締切】11 月 6 日（金）15 時【宿題】（各題 3 句詠）『楽々』・『個』・『自由詠』【席題】（1 題 3 句詠・2 人共選）。選者は当日の参加者より選出【川柳ラボ】互選 1 句『昼』【ウェブサイトから投句】http://www.okajoki.com/【メールでの投句】moritatakeiko@gmail.com 守田啓子宛

□ 2025.11.20〆　おかじょうき会員雑詠集「無人駅」5 句

【締切】11 月 20 日必着【提出】雑詠 5 句、お気に入り 1 句（最新号からお好きな作品 1 句とそれに対する簡単なコメントも記入）【掲載】1/1 発行号【ウェブサイトからの投句】http://www.okajoki.com/【メールでの投句】moritatakeiko@gmail.com 守田啓子宛

■会費拝受【8 月受付分】

小松憲一（茨城県）

おかじょうき川柳社は年会費 4,000 円です！
会員はすべての投句料が無料になります。
会員登録はこちらのフォームから申し込みください。
→振込先：ゆうちょ銀行　口座№ 02280-6-43112

おかじょうき川柳社　お問い合わせ先

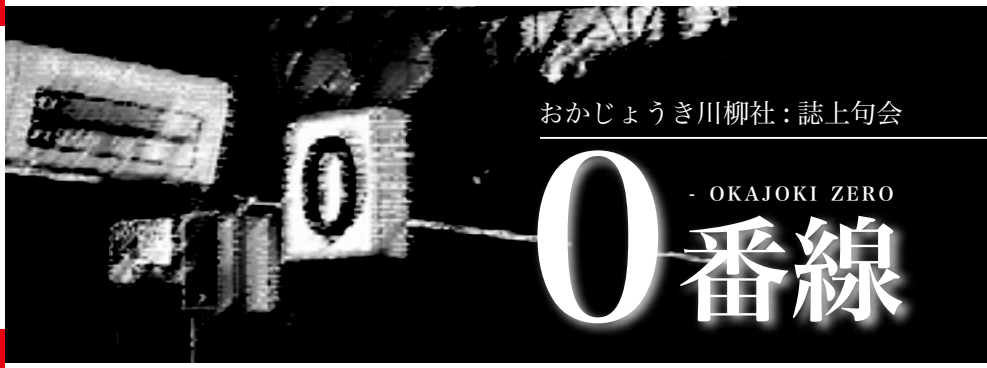
●投句以外のことについてはこちらへ●

熊谷冬鼓　toko@okajoki.com　FAX.017-752-3759

終着駅　Sin

◆私がフィルターバブルの中にいるだけなのかもしれないが、いま世界中が AI に振り回されている。思えば約 10 年前、「近い将来、短詩系文学は AI が作り出す作品とどう差別化を図るのかを考えなければならない」と、ここ「終着駅」に書いた。なぜその当時､そう思ったのか。それは「将棋」という世界で、AI が人間に勝利するというエポックメイキングな出来事が起こったからである◆それから 10 年、将棋は AI を拒絶することなく、伴走するように進化してきた。ただ、それを眺めていて、ずっとモヤモヤとした違和感があった。そして最近、将棋界のレジェンド・羽生善治のインタビュー動画を見て、その答えがわかった。羽生曰く「AI によって様々な手の優劣がハッキリしてきて、最終的に完璧な答えが出てくるのかと思いきや、逆にいろんな選択肢で溢れかえってしまっている」と。10 年前は、みんなが AI 通りの手を指し始め、将棋というゲームが終わってしまうのではないかとすら思っていた。ところが、正解が一つに収束するどころか、逆に混沌としている。それが私の感じていた違和感の正体だった。そして羽生はこう続けた。「選択肢はたくさん増えたが、時間は有限なので、それを全部追いかけるわけにはいかない。その選択肢から何を捨てて、何を選択するか、その選択力がいま人間側に問われている」と◆川柳においても、たぶん同じ世界がやってくるのだろう。AI を使って全員が同じような句を作りだしてしまうような未来ではなく、AI が吐き出した膨大な情報の中から、何を捨て、何を選択するのか。それが大きく問われる時代が、もうすでに来ているのだと思う。AI は全員の実力差を埋めてくれる優しい道具だと思っていたが、もしかしたら、AI というのは、一人一人の実力差を顕著に見せるための恐ろしい装置なのかもしれない◆ Sin

No.391



おかじょうき川柳社：誌上句会

0番線 - OKAJOKI ZERO

課題と選者（２句詠・共選）

題：『口』

11/30〆切

選者 蟹口和枝（京都府）

むさし（青森県）

投句方法

※誠に申し訳ありませんが、郵送・FAX での応募は受け付けておりません。

▼ウェブサイトからの応募

投句フォームを開く

作品応募フォームから必要事項を記入して送信してください。

▼メールで直接送信

メールで投句する

メール本文内に「作品（２句まで）」「郵便番号」「住所」「氏名または雅号（ふりがな）」「電話番号」を明記し、送信してください。

投句料

1,000 円　※おかじょうき川柳社会員は無料です。

◆振込先：郵便振替　No.02280-6-43112　口座名 おかじょうき川柳社

賞

特選の方に青森県特産品を贈呈。

２０２６年10月1日発行（年12回発行）　第31巻10号通巻391号
●発行人／むさし●編集／Ｓｉｎ●発行／おかじょうき川柳社●表紙題字／金子榮風
青森県東津軽郡蓬田村阿弥陀川字汐干43－3●E-Mail:info@okajoki.com